



Vol.158

## CONTENTS

【コラム】 小学校低学年における ICT の活用—毎日タブレットを合言葉に—森下 華帆

【解説】 日本プログラムのレベル向上：ICPC を通して…山口 利恵・山口 文彦

【解説】 情報Ⅱ解説動画の活用に向けて…田崎 文晴



## COLUMN

### 小学校低学年における ICT の活用 —毎日タブレットを合言葉に—

2017年9月、渋谷区は全国に先駆けて児童生徒1人1台のタブレット端末を導入しました。7年が経ち、ICT機器を鉛筆やノートと同様に活用することで、協働的な学びと個別最適な学びが実現されています。私が渋谷区に着任したのは2019年度で、タブレット導入から1年半後でした。新しいタブレット端末に対するわくわくした気持ちは今でも鮮明に覚えています。

子供たちとの授業は新しい発見と失敗の連続で、成長し続けることに大きなやりがいを感じます。現在、特に力を入れているのは低学年でのICT機器の活用です。「1年生だから難しい」ではなく、「1年生だからこそ可能性がある」と捉え、日々検証しています。鉛筆の握り方やひらがなを学ぶ子供たちとともに、タブレット端末を使った授業を当たり前にするにはGIGAスクール構想を進める上で重要です。低学年でのICT活用が中学年、高学年でのさらなる可能性を広げると考えています。

子供たちとICT機器の活用を進める上で、合言葉にしているのが「毎日タブレット」という言葉です。子供たちが毎日、タブレット端末に触れる機会を意図的に作るために、この合言葉を採用しています。たとえば、連絡帳を電子化し宿題や次の日の予定をタブレット端末で送っています。これにより、連絡帳を書く時間が省け、その分子供たちと直接かかわる時間が増えました。放課後には、宿題や次の日の予定を確認するためにタブレット端末を開きます。開いたついでに、先生とチャットを楽しんだり、友だち同士でコメントを交わしたりする機会が生まれました。ほかにも、勉強に役立つサイトのURLを共有しています。授業の中では、こうしたサイトへのアクセスの仕方や、勉強の手順を教えます。実際の操作や学習は、授業時間だけでなく家庭学習の時間にも行えるよう配慮しています。そうすることで、保護者の目にもタブレット端末の存在が認知されます。保護者にとっても未知な存在であるタブレット端末を、いかに身近な存在に変えていくのか、その点についても我々は考えていかなければならないと感じています。

こうした日々の積み重ねがタブレット端末の存在を当たり前にしていきます。この「当たり前」になることこそが、低学年におけるICTの活用に向けた大きな一歩であると考えています。これからも子供たちと一緒に毎日、タブレット端末の新たな可能性について考え、挑戦していきたいと考えています。

森下華帆（渋谷区立千駄谷小学校） <https://www.facebook.com/profile.php?id=100006587019646>

渋谷区立千駄谷小学校にて教諭として勤務。現在6年目。小学校低学年（特に1年生）でのICT活用に強い興味関心があり、効果的な活用方法について日々模索している。

LOGOTYPE DESIGN...Megumi Nakata